

東京都立小石川中等教育学校

【日本史B】

年間授業計画

教科:(地歴) 科目:(日本史B) 対象:(第5学年 A組～ D組)

使用教科書:「詳説日本史B改訂版」(山川出版社)

使用教材:図説「詳説日本史図録第7版」(山川出版社)

	指導内容 【年間授業計画】	科目の具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
4 月	日本史における前近代の学習（原始・古代、中世、近世）	・日本史における前近代の流れを概観する。 （原始・古代、中世、近世） ・日本の歴史の大きな枠組みと流れを理解させたい。今日我が国のあり方について、特に大きな影響を与えた明治維新・近代期を、世界なかでも特にアジアとの関係を背景に理解させる。 ・幕末期から明治初期の政治・経済・文化の各分野を取り上げ、学習する。 近代国家成立の前提を考察 欧米のアジア進出と早期開国の可能性を考察	・日本史の大きな枠組みと流れを理解して、その地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察することができたか。	8
5 月	開国と幕末の動乱	・国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、開国から明治維新に至るまでの過程を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ・幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕府勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。	・条約締結、開国による経済社会の情勢変化に着目して、政局への影響を考察できたか。 ・尊王攘夷、公武合体、倒幕の動きに着目して権力構造の変化を理解できたか。	10
6 月	明治維新と富国強兵	・明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を考察する。 ・欧米の文化・思想の導入と一連の近代化政策に対する反動としての土族反乱・農民一揆の失敗と、言論による要求実現への転換を理解する。	・実施された諸政策に着目して、明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察できたか。 ・近代化政策や欧米文化の導入について、国民の間の受容と反発。また、政府への抵抗が武力から言論に移行する要因を理解させる。	13
7 月	明治維新と富国強兵	・明治初期の対外政策について、欧米への対応と、アジアに対する外交政策の違いについて考察する。	・国境確定を含む明治初期の外交政策について、欧米諸国への対応とアジア諸国への対応の違いを多面的多角的に捉えることが出来たか。	3

東京都立小石川中等教育学校

【日本史B】

年間授業計画

教科:(地歴) 科目:(日本史B) 対象:(第5学年 A組～ D組)

使用教科書:「詳説日本史B改訂版」(山川出版社)

使用教材:図説「詳説日本史図録第7版」(山川出版社)

	指導内容 【年間授業計画】	科目の具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
8・9月	立憲国家の成立と日清戦争	明治前期から中期の政治・経済・文化の各分野を採り上げ、学習する。 ・国家体制の近代化について 政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。	・国会開設要求運動などにみられる国民の政治的関心の昂揚と挫折の過程について考察できたか。 また、憲法の特色、議会と内閣のあり方などを通して、戦前の立憲制の仕組みを理解できたか。	7
10月	立憲国家の成立と日清戦争	・日清戦争について近代最初の対外戦争としての概要を学習する。 ・東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について考察する。	・条約改正が法典整備など国内体制の確立だけでなく、英露対立を背景にして進展した点を年表や地図から考察できたか。 また、朝鮮をめぐる対立が日清戦争の背景となった点を理解できたか。	12
11月	日露戦争と国際関係	・開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進を諸外国の動向と関連付けて考察する。 ・立憲体制成立後から桂園時代に至るまでの国際政治の動きを、政党と藩閥の対立と協力の視点から考察する。 ・立憲体制成立後から桂園時代に至るまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の対立と協力の視点から考察する。	・日露戦争が軍事、経済、工業力等国家の総力を結集した戦争であったこと、また、日本の勝利がアジア諸国の民族独立や近代化運動を刺激した反面、その後の韓国併合や満州進出の動きが国民の対外意識や近隣諸国の対日意識に繋がったことについても考察できたか。	12
12月	近代産業の発展 近代文化の発展	・日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して考察する。 ・近代文化の特色について政治・経済・外交などの視点をもって考察する。	・近代産業の発展を財閥の形成や寄生地主制の成立などを相互に関連付けて考察できたか。 ・近代文化の二元性や国民の文化創造に取り組む姿勢を考察できたか。	7

東京都立小石川中等教育学校

【日本史B】

年間授業計画

教科:(地歴) 科目:(日本史B) 対象:(第5学年 A組～ D組)

使用教科書:「詳説日本史B改訂版」(山川出版社)

使用教材:図説「詳説日本史図録第7版」(山川出版社)

	指導内容 【年間授業計画】	科目の具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
1 月	桂園時代・大正政変 第一次世界大戦と日本	明治後期の政治・経済・文化の各分野を採り上げ、学習する。 ・第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。 ・第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などと関連させて考察する。	・大正政変以降、政党政治の発展を理解し、国際環境の推移二着目し、21か条要求やシベリア出兵が及ぼした内外の影響について考察出来たか。	9
2 月	ワシントン体制 市民文化	・ワシントン体制に至る国際的な協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。 ・労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、市民文化の特色について考察する。	・ベルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や朝鮮中国の民族運動の昂揚に着目できたか。 ・様々な社会運動の背景に成立した政党政治を考察できたか。	9
3 月	恐慌の時代 戦争への道、そして戦後の日本概観	・戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ・軍部の台頭から第二次世界大戦、そして敗戦後の日本への推移を概観考察する。(第二次世界大戦～占領下の日本～高度成長時代～激動する世界と現代) ・日本が抱える諸問題の根源を近代期に求め考察する。さらにその学習を通して、歴史的思考力を身につけさせる。	・戦後恐慌、金融恐慌、昭和恐慌の背景となる関東大震災、金解禁、世界恐慌との関連を含めて理解できたか。 ・満州事変以降の戦争への道、そして敗戦と戦後の諸政策について考察できたか。	5